

一般質問関連写真



オートバイ神社



ゆとりすとパーク



コミュニティホーム西町の郷



江府町営タクシー

編集後記

厳しい寒さの日が続く中、議会では新年度に向けた重要な議論が行われています。

町の将来を考え、1つひとつの声に耳を傾けながら、より良い施策につなげていくことが私たちの責務です。

本号の議会だよりが、町政や議会をより身近に感じていただくきっかけになれば幸いです。

引き続き、皆さまのご意見をお寄せください。

広報編集特別委員会 編集委員
小川 智也

ご意見やご感想は 大豊町議会事務局 TEL:72-0450(ピカラ)72-0850

議会を傍聴
してみませんか

3月・6月・9月・12月は議会定例会が予定されています。
町民の皆さまの暮らしにかかわる施策などが決められる大切な議会です。

教育民生常任委員会調査報告書

地域包括ケアシステム（鳥取県南部町）・
移動手段の確保（鳥取県江府町）に関する調査

教育民生常任委員長 三谷 よし恵

●南部町では、地域振興協議会の地域コミュニティホームについて調査を行った。

南部町は鳥取県の西部に位置し、平成16年10月会見町と西伯町の2町が合併して誕生した。

合併時の町長が、新町の施政方針として地域自治組織づくりを提案した。地域の課題は地域で解決し、自分たちの地域は自分たちで創っていく、住民が責任と誇りを持って取り組める新しい仕組みづくりを目指し、まちづくりアンケート、住民説明会等を経て、平成19年4月町内を7つに区切った7地域振興協議会が発足した。

当初は、運営支援のため町から職員を2名配置し、各協議会の地域づくりの運営が円滑に行えるよう支援し、その後、町職員は引き上げ協議会採用職員を雇用して現在に至る。

また、令和4年度からは、福祉機能を強化するために福祉コーディネーターを配置している。

それぞれの地域振興協議会へ活動費、人件費等として交付金を拠出し、令和7年度予算額は、約8千万円、1協議会当たり約1千万円となっている。

合併を機に、行政主導ではなく住民主体で地域づくりを進める地域振興協議会

が、発足後15年以上継続していることに住民力を感じている。

東西町地域振興協議会が行っているコミュニティホーム西町の郷について研修した。同ホームは、鳥取型地域生活支援システムモデル事業（コミュニティホーム事業）を活用し、自宅での暮らしと同じように過ごせる居場所として平成25年6月24日に開所し、全国初の取り組みとして注目された。

事業取り組みへの経緯は、平成23年に鳥取県から概要説明を受けた南部町が、東西町地域振興協議会へ受け入れの打診を行い、地区が受け入れを決意し、プロジェクトチームを立ち上げ検討を重ね、民家の手配、専門職、送迎ボランティア等を確保し翌々年開所した。

開所から10年以上が経過し、当初の事業計画にある宿泊等の事業は利用者がなく休止状態になっているが、居場所づくりとしての日中の受け入れは継続している。

また、注目すべきは、有資格者のボランティアスタッフ

は時給350円であり、送迎は無償で行っている点である。

今後については、ボランティアの高齢化を危惧しつつ、コミュニティホームの継続を模索している。

●江府町では、住民の移動手段の確保について調査を行った。

令和3年4月から、自家用有償旅客運送にて運行していた町営バスに、町営タクシーを加えて持続可能なより利便性の高い公共交通に再編している。

きっかけは、平成30年に町営交通の運行受託をしていた事業者から「数年後には町営バスの運行受託はできなくなる。タクシーも撤退する」との話が出たため、新たな体制づくりをする必要に迫られた。検討を重ねるうちに、他事業者から「自家用有償旅客運送制度による町営タクシーという方法はできないか」という言があり、鳥取運輸支局に相談を重ね事業を開始することができた。

現在、事業運営に民間事業者と委託契約し、バス運行にマイクロバス5台、10人用車両2台、またタクシー運行に普通車両4台を配置している。バス運行については、児童・生徒の送迎を中心に、昼間の運行は休止している。そして、運転職員はバス乗務以外の時間をタクシーに乗務するという仕組みで、事業を遂行している。

差し迫った課題に直面する中で、それをきつかけと捉えて、町が一丸となって住民の移動手段の確保を従前よりきめ細かな事業に再編できた成功例である。



コミュニティホーム西町の郷（南部町）